



平成29年度に教育委員会が行った主な取組み

教育委員会では、「北九州市教育大綱」に基づき、市長と教育委員会で共有した方向性に沿って、子どもの教育を推進します。また、教育プランに掲げる教育の目標である「思いやりの心をもつ、自立した子どもを育てる」を目標とし、「子どもの教育」に対する満足度を高めるとともに、市民の参画を進める取組みを総合的に推進します。平成29年度に取り組みの主な事業について紹介します。

心の教育推進事業

「北九州市子どもつながりプログラム」を全校で実施するとともに、芸術性の高い文化・芸術の鑑賞機会の提供や文化活動の充実を図ることにより、豊かな人間性をはぐくむ道徳教育・体験活動を推進します。



心の教育推進事業(箏の体験活動)

北九州市学力状況調査事業

小学校から中学校まで児童生徒一人一人の学力を継続的に把握・分析し、学力の向上に役立てるための学力調査を拡充して実施し、全国学力・学習状況調査の結果とあわせて、よりきめ細やかな指導を行います。

《平成28年度》		《平成29年度》	
対象学年	実施学科	対象学年	実施学科
		小4	国語・算数
小5	国語・算数	小5	国語・算数・理科
中1	国語・数学	中1	国語・算数・理科・英語
中2	国語・数学	中2	国語・算数・理科・英語

アクティブ・ラーニング推進事業

学習指導要領の改訂の方向性を踏まえ、教科等における主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点から学習過程及び学習指導方法の開発・改善を行い、その成果の普及を図ります。

次期学習指導要領に対応した新たな英語教育の推進事業

リーディングス・クール(推進校)に、常駐のALTを拡充配置するとともに、英語が堪能な日本人授業助手を新たに配置し、小学校教員の授業力向上を図るとともに、次期学習指導要領に対応した英語教育のモデル実践を行います。



ALTを活用した英語の授業

子どもまわり学習塾事業

児童生徒の主体的な学習習慣や、基礎的・本格的な学力の確実な定着を図るため、放課後等を活用して学習機会を提供する「子どもまわり学習塾」の対象校を拡充して実施します。

《実施校数》 小学校 90校 ↓ 100校
中学校 全62校を対象

学力定着サポートシステム構築・運用事業

診断問題及び基礎・基本定着問題の提供を通して、各学校における児童生徒一人一人のつまづきの把握、効果的な補充学習の推進を支援します。

学校の読書活動推進事業

子どもたちが読書に親しむ環境を整え、学校図書館の利用を促進するため、学校図書館職員を拡充して配置し、中学校区及び特別支援学校における読書活動を二層推進します。

○学校図書館職員：中学校 37名 ↓ 43名
特別支援学校 1人

部活動振興事業

部活動振興及び部活動の負担軽減を図るため、競技等の指導を行う「部活動外部講師」に加え、新たに顧問や引率等の業務を担う「部活動指導員」を配置するなど、生徒が充実した部活動を行える環境を整備します。



部活動の様子

○部活動指導員：0人 ↓ 15人

特別支援教育を推進する体制の充実

特別支援教育学習支援員の拡充配置やスクールカウンセラーの配置・活用により、特別支援教育に係る支援体制や相談機能の充実を図るとともに、将来の自立や社会参加に向けたきめ細かな就労支援を進めます。

○特別支援学級補助講師配置人数：53名 ↓ 55名
○特別支援教育学習支援員の配置：5名 ↓ 19名
○早期支援コーディネーターの配置人数：3名

特別支援学校スクールバス運行体制の整備

スクールバス利用者の増加に伴い、乗車時間の長時間化や乗車人数の過密化が喫緊の課題となっているため、車両の増車等により運行体制を整備します。

小池特別支援学校整備事業

本市西部地域における知的障害児の増加への対応及び校舎の老朽化等の課題を解消するため、小池特別支援学校の整備にかかる基本計画の策定に着手します。

「チーム学校」運営・推進事業

学校を取り巻く環境が複雑化し、様々な教育課題への対応を迫られる中、特に生徒指導上の諸問題に対応するため、スクールソーシャルワーカー(注1)やスクールカウンセラー(注2)など専門性を持つスタッフを整備し、教員とともに一つのチームとして学校の教育力を高めめます。

(注1)スクールソーシャルワーカー
社会福祉士又は精神保健福祉士の資格を有し、不登校や暴力行為など、問題を抱える児童生徒が置かれた家庭環境に働きかけたり、関係機関との連携の強化を図る職員。
(注2)スクールカウンセラー
児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有し、児童生徒へのカウンセリング等を行う職員。

○スクールソーシャルワーカー配置人数：9名 ↓ 12名
○スクールカウンセラーの配置：全62中学校・特別支援学校等に配置、全小学校に派遣

学校施設老朽化対策事業

安全で安心な学校施設の整備を図るため、学校施設の老朽化対策を行います。

○大規模改修事業 ○外壁改修事業
○法面改修事業など

小中学校等空調設備整備事業

良好な学習環境を確保するため、小中学校等の普通教室にエアコンを設置します。平成29年度は平成30年度整備予定の小学校22校分の設計を実施します。

子ども図書館整備事業

「北九州市子ども読書活動推進条例」に基づき、子ども図書館を整備するため、基本実施設計を策定するとともに、改修工事等に着手します。

小倉南図書館整備推進事業

小倉南区の地区図書館の建設工事を引き続き行うほか、開館に向けて図書資料の購入等を行います。



小倉南図書館(イメージ)

ひびきの小学校が開校しました



若松区と八幡西区にまたがる学研地区では、近年の大規模な宅地開発により、光貞小学校の児童数の増加が続いていました。このために生じていた教室の不足や、学校行事の運営面での課題等を解消するため、平成29年4月に光貞小学校を分離し、本市で15年ぶりの新設小学校となる「ひびきの小学校」を新設しました。

児童数981名、普通学級30学級、特別支援学級2学級でのスタートです。

教育内容の特長

1

近隣の北九州市立大学ひびきのキャンパスなどと交流します。具体的には、理科教育・総合的な学習の時間等の学習を中心とした交流、委員会活動やクラブ活動等の特別活動を中心とした交流などを予定しています。

2

英語教育の推進校として、ALTが常駐します。日頃から児童が英語に親しめる場を設け、児童が学校を卒業して社会に出た際に、自分の考えや思いを英語でも積極的に伝えることができるようなコミュニケーション力を育成していきます。

なお、この取組みは、光貞小学校、洞北中学校、浅川中学校と協力しながら進めていきます。

施設の特徴

新たな地域コミュニティの拠点として機能するよう、「ひびきの市民センター」と「ひびきの児童クラブ」を、校舎と一体化して建設しました。

開校式

4月8日(土)に、ひびきの市民センター開館式、ひびきの児童クラブ開所式と併せて開催しました。厳かな雰囲気の中、教育長による開校宣言がなされ、ひびきの小学校の新しい校旗が、太田校長へ授与されました。地域の皆様や学校関係者が温かく見守る中、児童代表が決意を述べ、その後、校歌を作詞・作曲した富永裕輔さんと一緒に歌い、体育館に歌声の輪が広がりました。



北九州市立大学大学院国際環境工学部の出端彩乃さんがデザインしました

第1回スポコン広場地区大会 (北九州市大会) 開催!!

2月4日、北九州市立浅生スポーツセンターにおいて、市内の小中学校(希望校)による「第1回スポコン広場地区大会(北九州市大会)」が開催されました。第1回目となる今回の大会では、小学校3校が参加し、日頃の練習の成果を競い合いました。

スポコン広場とは、「スポーツコンテスト」の略で、「スポコン広場ホームページ」(県教育委員会主催)上で県内の他の学校の記録を知ることができたり、各学級単位で登録して記録を競い合ったりするもので、楽しく運動に親しみ、広く児童の運動機会を増やすことを目的としています。平成28年度は、5600を超える学級が登録して、楽しく運動に取り組んでいます。



北九州市大会では、西小倉小学校、長尾小学校、戸畑中央小学校の3校(高学年)が出場し、「みんなでドッジボールラリー」(3分間でキャッチボールをした回数を競う)及び「みんなでなわとび」(3分間で跳んだ回数を競う)の2種目を実施しました。どの学校の児童も、笑顔で声を掛け合いながら楽しそうに運動をしていた姿が多く見られた素晴らしい大会でした。

平成29年度も、第2回スポコン広場地区大会を実施する予定です。多くの学校の参加をお待ちしています。

北九州市中学生合唱フェスティバル

2月4日、アルモニーサンク北九州ソレイユホールにおいて、「北九州市中学生合唱フェスティバル」が開催されました。昨年度から『合唱の街・北九州』の事業の一環として始められた音楽会です。平成28年度は22中学校、325名の中学生が出演しました。また6小学校136名も合同合唱で参加しました。

「北九州市歌」をはじめ、北九州市文化大使の富永裕輔さんが作詞、作曲した「明日への翼」や合唱をテーマにした曲「Sing With You」の全体合唱、合唱部のリーダーや有志で結成された「フェスティバル合唱団」による混声合唱が披露されました。また「明日に向かって」希望・祈り」をテーマに、参加中学校が5つのブロックに分かれて、未来に向けての希望、東北や熊本など被災地への祈りを、美しいハーモニーにのせて表現しました。



日本の伝統的食文化 「和食」を学ぶ

～ミシュラン認定シェフによる出前授業～

初めて見るプロの技に釘付けとなり、様々な体験を通して和食を楽しく学ぶ機会となりました。

『おいしい！』などの感想が聞かれました。

鴨肉を使った汁物の調理実演では、どの子どもも

が鰹節の削り体験やだしの試飲を行い、『いい香りができるまでの説明を聞いた後、子ども達一人一人が鰹節の削り体験やだしの試飲を行い、『いい香り』

と、鰹節製造販売の「株」に

「だし」にスポットを当て、鰹節

でも北九州市の学校給食の献立開発にご協力いた

だいて松山相三さんと、鰹節製造販売の「株」に

「だし」にスポットを当て、鰹節

でも北九州市の学校給食の献立開発にご協力いた

だいて松山相三さんと、鰹節製造販売の「株」に



若松区の高須小学校5年生を対象に、プロの和食料理人による、食育の出前授業が行われました。

講師は、「ミシュランガイド福岡・佐賀2014」で二つ星を獲得した「御料理まつ山」(八幡西区)の店主であり、これまでも北九州市の学校給食の献立開発にご協力いただいている松山相三さんと、鰹節製造販売の「株」に「だし」にスポットを当て、鰹節



北九州市ユネスコスクール 推進指定校の取組み

ユネスコスクールは、ESD(持続可能な開発のための教育)の推進拠点として位置付けられ、ユネスコの認定を受けた学校です。世界中の学校と交流し、環境、国際理解、エネルギーなど地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育に取り組んでいます。

本市では、市内のESD推進の中核として、北九州市ユネスコスクール推進指定校を各区に指定し、指定校は実践を積み重ね、情報を発信すると共に、ユネスコスクールへの正式登録を目指しています。



その中の一つ、小倉北区の藍島小学校では、地域の特性をいかし、スナメリウォッチングや、アジを釣って、干物をつくる活動を行いました。これらの活動を重ねる中で、ふるさと藍島

を愛し、豊かな自然を守ろうとする意識が芽生えてきています。

この度、これまでの藍島小学校の取組が認められ、ユネスコ本部より正式にユネスコスクールとして認定されました。これで本市の正式登録は8校となりました。



<各区の北九州市ユネスコスクール推進指定校>

門司区	藤松小	早鞆中	八幡東区	大蔵小	尾倉中
小倉北区	藍島小	菊陵中	八幡西区	竹末小	黒崎中
小倉南区	市丸小、すがお小	湯川中	戸畑区	鞆ヶ谷小	中原中
若松区	赤崎小	高須中			

北九州が好きっちゃんね!

～シビックプライド講座のご案内～

教育センターでは、昨年度より「シビックプライド講座」をスタートしました。

子どもたちのシビックプライドの醸成に向けて、まず大人が北九州市のよさを学ぶ講座として実施した全9回の講座では、376人の教職員や市民の皆様に参加していただきました。



レディスやはた(西部勤労婦人センター)での狂言の体験や文学館での常設展クイズラリー、漫画ミュージアムでの漫画家体験など、様々な角度から北九州市の魅力を再発見

見できる講座として好評を得ました。

今年度は、新たな視点を加え、さらにパワーアップした講座を実施します。

第1回目は、6月29日開催の「映画ロケによるまちづくり」です。その後も、3月にオープンしたばかりのミクニワールドスタジアム北九州を会場とした講座など、北九州市の魅力と心で実感していただける講座を多数企画しています。そして、多くの皆様の御参加をお待ちしております。



開催日時など詳細は教育センターホームページ「自主講座ご案内」でご確認ください。(会場等の都合により参加人数を制限させていただく講座もございます。ご了承ください。)

申込先
申込み方法

北九州市立教育センター
電話、ファックスで
TEL 641-1775 FAX 641-1833
ホームページ「自主講座ご案内」から
URL <http://www.kita9.ed.jp/eductr/>

携帯・スマホ用
ホームページは
こちらから



平成28年度 杉浦奨学生贈呈式

芸術・文化、学術、スポーツの各分野で活躍し、北九州市の文化振興に寄与することが期待される人材の育成を目的として設けられた「杉浦奨学生」に、卓球や陸上競技、バイオリン、デザインで活躍している5名(高校生3名、大学生2名)の方が決定し、贈呈式が行われました。

平成4年度に事業を開始して以来、平成27年度までに141名が杉浦奨学生として採用され、過去の奨学生の中には、オリンピック代表や世界大会・アジア大会に日本代表として出場された方、国内外での音楽活動など輝かしい実績を挙げている方などが多数おり、平成28年度杉浦奨学生も今後の更なる活躍が期待されます。



前列: 杉浦奨学生(代理出席) 後列: 審査委員



より良い学校教育を目指して! ~ 平成28年度 学校教育実態調査 ~



本市では、より良い学校教育を行うための基礎資料とするため、平成13年度から「北九州市学校教育実態調査」を実施しており、平成28年度は、児童・生徒・保護者・教師8,644人を対象として、実施しました。
児童生徒、保護者、教師それぞれの調査結果の一部を紹介します。

今回の調査結果を基に、本市の学校教育において何が課題となっているのか?を明らかにするとともに、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」及び、全市的な目標である「一人一人に『生きる力』を育む学校教育の創造」の着実な推進に向けて活用していきます。

☆学力が向上する要因として、大切だと思うこと (大切だと思う順に選択肢より3つ選ぶ)

保護者

- 1 児童生徒本人の目的意識 66.5%
- 2 児童生徒本人の努力 65.2%
- 3 児童生徒と教師の信頼関係 54.7%

保護者は、子どもに目標をもってがんばってほしいと思っています。

教師

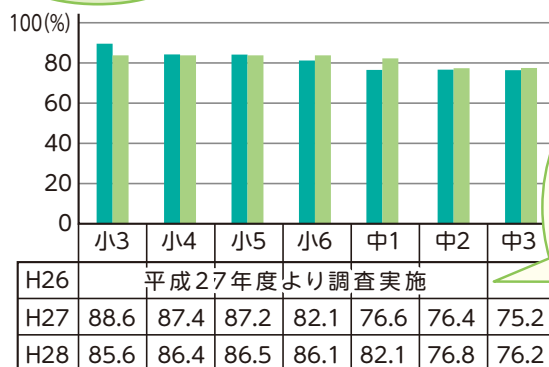
- 1 教師の教え方の工夫改善 65.7%
- 2 児童生徒本人の目的意識 52.2%
- 3 児童生徒と教師の信頼関係 50.0%

学力向上のために「授業改善」の必要性を実感しています。



☆あなたの地域でのようすについて 「住んでいる地域や北九州市が好きだ」

児童生徒



昨年に比べ、上級生(小6~中3)のシビックプライド(まちに対する市民の誇り)が高まっていることが分かります。



特別支援学校で学ぶ 生徒の「働く意欲」を見てください! ~特別支援学校生徒雇用促進セミナー~

1月17日、「第4回特別支援学校生徒雇用促進セミナー」を開催しました。そこで、特別支援学校の生徒たちが、各校の紹介や、取り組んでいる作業学習の説明、作製した作品の展示、清掃や接客の実演等を行いました。

参加した企業の方からは、「働きやすい環境を考える良い機会になった」「生徒たちの受け入れ方法や実習上の留意点などの詳細を知りたい」といった、生徒の雇用に関する前向きな意見をいただきました。将来の自立と社会参加を目指して、日々の学習や作業に励む生徒たちにとって、大変有意義なセミナーとなりました。



- <参加した学校>
- ◇小倉北特別支援学校
 - ◇小倉南特別支援学校
 - ◇小池特別支援学校
 - ◇八幡特別支援学校
 - ◇北九州中央高等学園
 - ◇門司総合特別支援学校

「ものづくりのまち」のよさを生かした 特別支援教育の推進

市民ボランティアによる
特別支援学校の教材づくり

本市では、平成28年度から、市民の方との協働により、市立特別支援学校で使用する教材・教具を作製しています。

「ものづくりのまち北九州」市民の皆さんが、それぞれの特技や趣味を生かしながら、児童生徒の状態や教育的ニーズに応じた教材づくり等に関わっていただく

ことで、特別支援教育や「合理的配慮」に対する理解を深めていただき、共生社会の形成につなげていきたいと考えています。



「北九州市立小・中学校の学校規模適正化の進め方」を策定しました

全国的に少子化が進行する中、本市においても児童生徒数は減少を続け、クラス替えができないような小規模な学校が増加しています。

義務教育段階の学校では、児童生徒の能力を伸ばしつつ、集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて社会性や規範意識を身につけさせることが重要です。そうした教育を十分に行うためには、小・中学校では適正な集団規模が確保されていることが必要です。

このため、教育委員会では、児童生徒にとってより良い教育環境を提供する観点から、平成29年3月、「北九州市立小・中学校の学校規模適正の進め方～子どもたちの教育環境整備のために～」を策定しました。

これは、教育環境の整備による教育効果の向上を図るため、学校規模の適正化に向けたこれからの方向性を取りまとめたもので、今後は、この方針に基づき、学校規模適正化に取り組んでいきます。

【学校規模の分類】

学校規模	小学校	中学校
小規模校	11学級以下	8学級以下
適正規模校	12~24学級	9~24学級
大規模校	25学級以上	25学級以上

【適正化対象校(小学校)】

小規模校のうち
複式学級・学年単学級かつ
全校児童数150名以下
(H37年推計値)

詳しくは市のホームページをご覧ください。 [北九州市 学校規模適正化推進事業](#)

平成28年度 福原賞表彰式

「福原賞」は、善行(人命救助等)、ボランティアや地域貢献など、顕彰すべき行為を行った、本市小中学校の児童生徒を表彰するもので、学校法人福原学園を創設された故福原軍造氏のご遺族から「学校の教育に役立てて欲しい」というご意向でいただいた寄付金を元に、平成元年に創設されました。

平成28年度は、

- ・朝一番に登校し、地域の方々へあいさつを続けている小学生
- ・転倒した高齢者に駆け寄って声をかけ、絆創膏を貼る等の応急処置を行った中学生
- ・地域の施設や祭り等での吹奏楽の演奏や年長者との交流を積極的に行う中学校吹奏楽部 など

個人23名、団体8校が表彰されました。



平成28年度 福原賞の表彰式